

「登戸研究所資料館」と生田緑地の一部を 巡りながら「岡本太郎美術館」を訪ねる



天候にも恵まれ、参加の皆様の協力もあり、怪我人もなく無事終了することができました。朝の集まりも順調で欠席者も殆どなく順調な滑り出しとなりました。明治大学生田校舎を突っ切って先ず登戸研究所にほぼ定刻に到着しました。

先ず登戸研究所では、塚本所員からの、時にはなかなか突っ込んだ大変興味ある解説を聞きながら、先ず風船爆弾の説明を受けました。この風船爆弾が和紙に蒟蒻芋のエキスを塗り出来ており、10、000発程度製作され、確認されただけで米国本土に360余発到達しており、推測では約1割の1、000発程度米国本土に到達して、山火事とか人的被害を与えたということには大変驚かされました。またこれらが、学校の講堂とか、町の公民館みたいな所でも作られていたということも知らない事実でした。



次に細菌兵器等の説明を受けた後、戦争に於いて後方攪乱用に作られた偽札造りの苦勞とか、中国がハイパーインフレとなりこの攪乱効果が薄れたとか、最後の方では、現地の新札があまりにも印刷等が粗悪で真似をするのが却って難しかったとか非常に面白い話を聞くことができました。また本土決戦に備えているいろいろ準備していたということも聞き、身につまされる部分もありました。その後明治大学校内に残る遺跡を廻り見学を終了しました。





その後大半の人達が学生時代の気分になんまり少し浸り乍ら、明治大学の学食を堪能しました。

午後から、腹ごなしを兼ね、岡本美術館まで新緑の中を歩きました。少し風がありましたが、天気も良くハイキングにはピッタリであったと思います。

岡本美術館では、大杉さんという創立当時から美術館におられる方に岡本太郎の両親の話から、岡本太郎の生い立ちの話までを話していただくと同時に、各絵の説明、その絵に含まれている作者の意図等まで詳しく案内していただき、岡本太郎の絵にあまり興味のなかった方々にも面白く理解ができたと思います。（岡本太郎氏の身長が1m58cm程度であったとは・・・、もっと大きい人をイメージしていました？）



その後向ヶ丘遊園まで歩き、「庄や」で12人の方々と
歓談し楽しい一日を過ごしました。

文章 奥村 進
写真 木村 一雄 富山 友次
編集 富山 友次